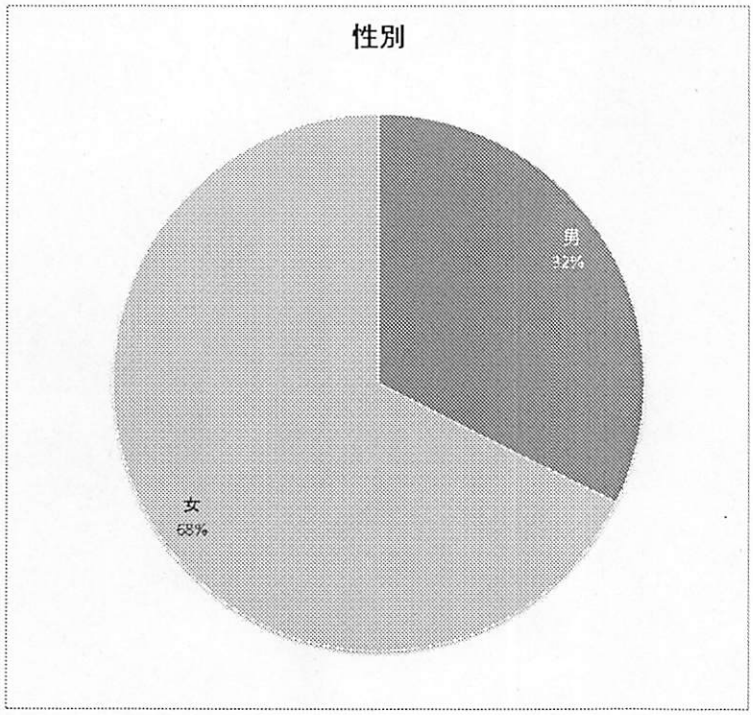
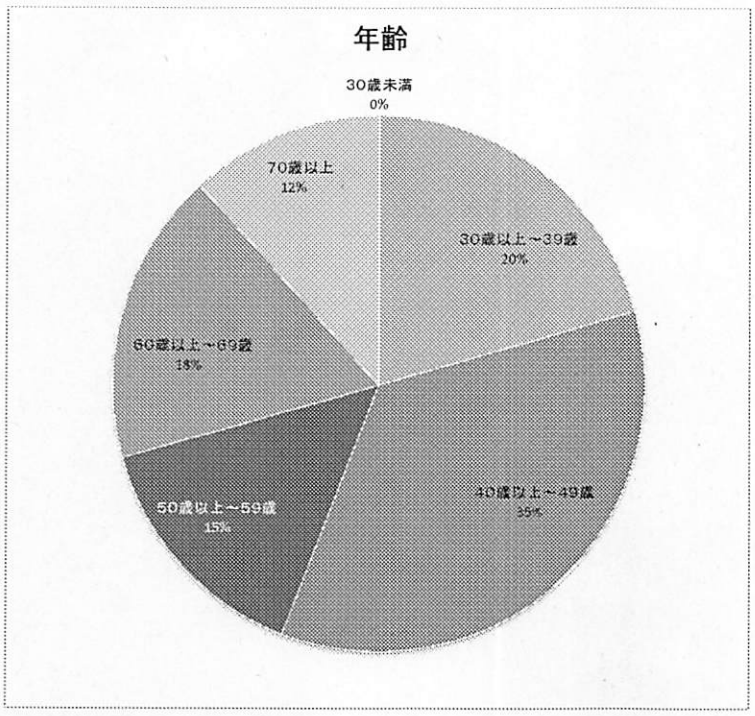
アンケート調査結果　　非農業者用

問　1　あなたの性別は。

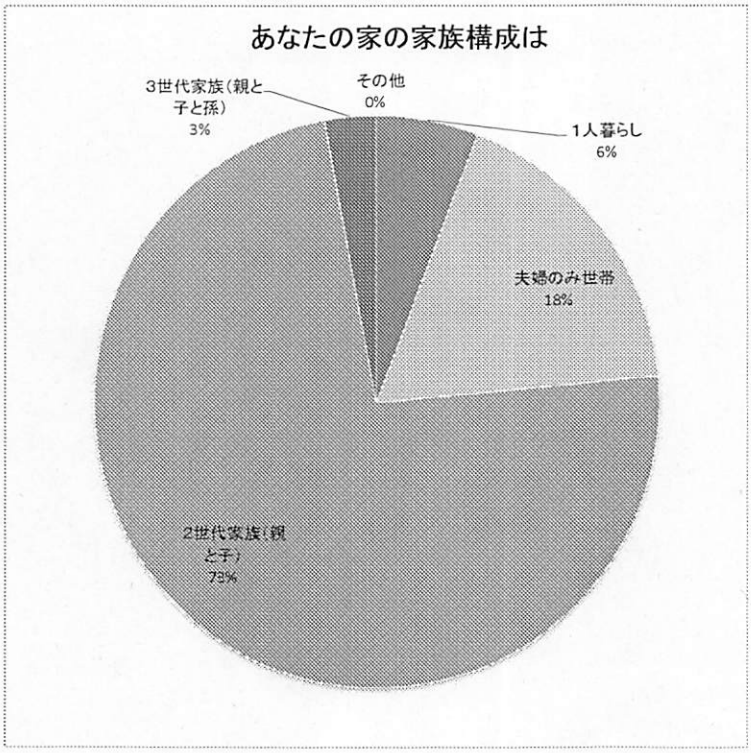


問　2　あなたの年齢は。



アンケート調査結果　　非農業者用

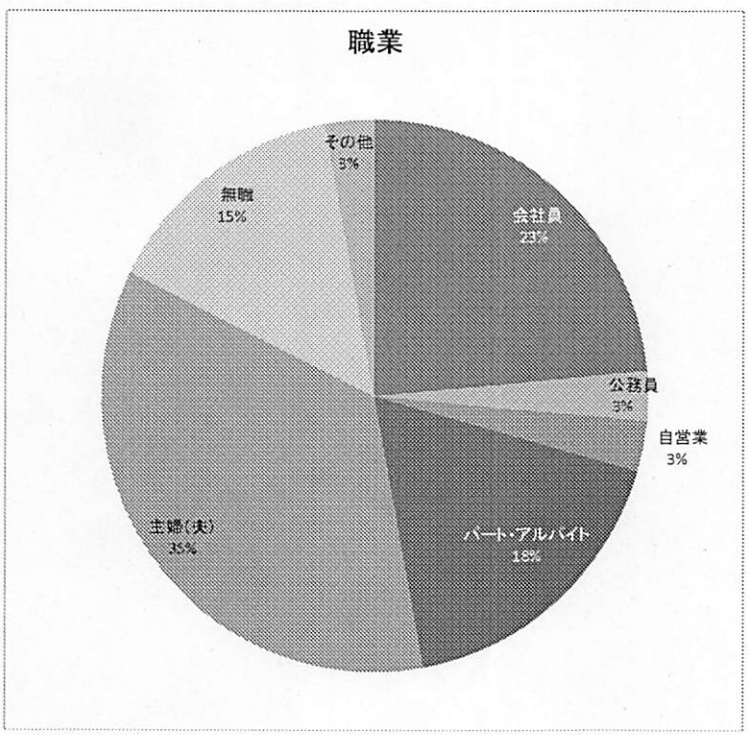
問　3　あなたの家の家族構成は。



・祖母・孫・ひ孫

コメント：２世代家族（親と子）が最も多く、次に夫婦のみ世帯が多かった。

問　4　あなたの職業は。



・菜園で野菜作り

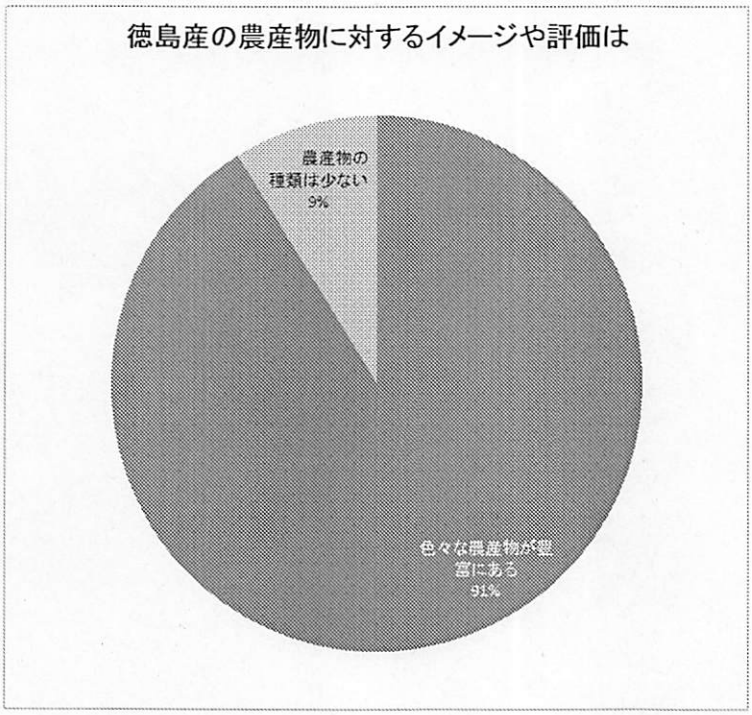
コメント：主婦（夫）が最も多く、次に会社員が多かった。

アンケート調査結果　　非農業者用

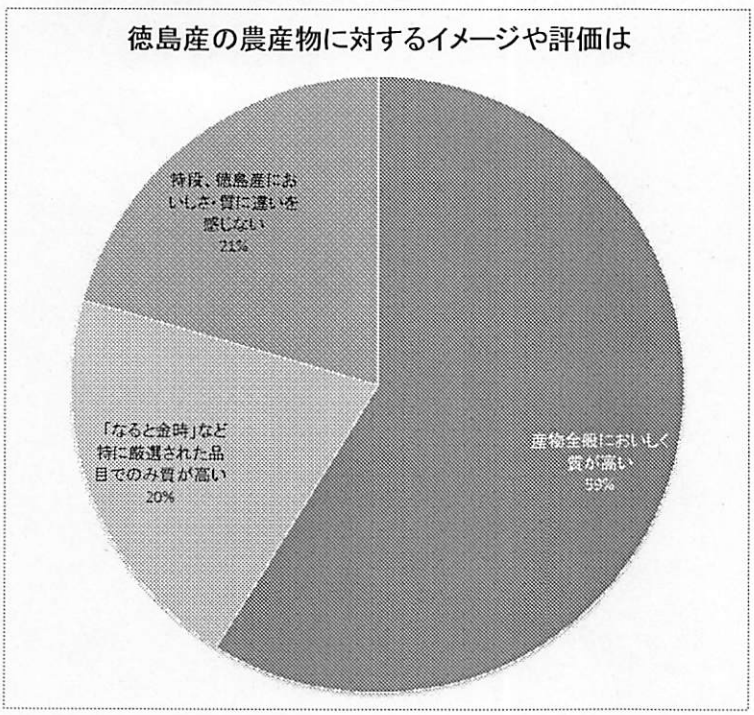
Ⅱ　農産物に対するあなたの考え方についておたずねします。

問　5　　徳島産の農産物に対するイメージや評価は。

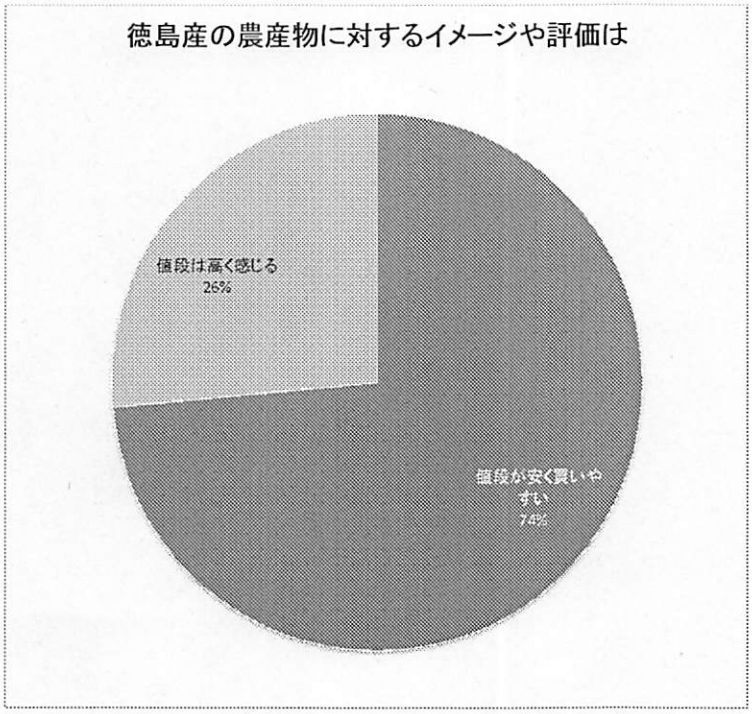
ア　(1)　色々な農産物が豊富にある　31
　　(2)　農産物の種類は少ない　3



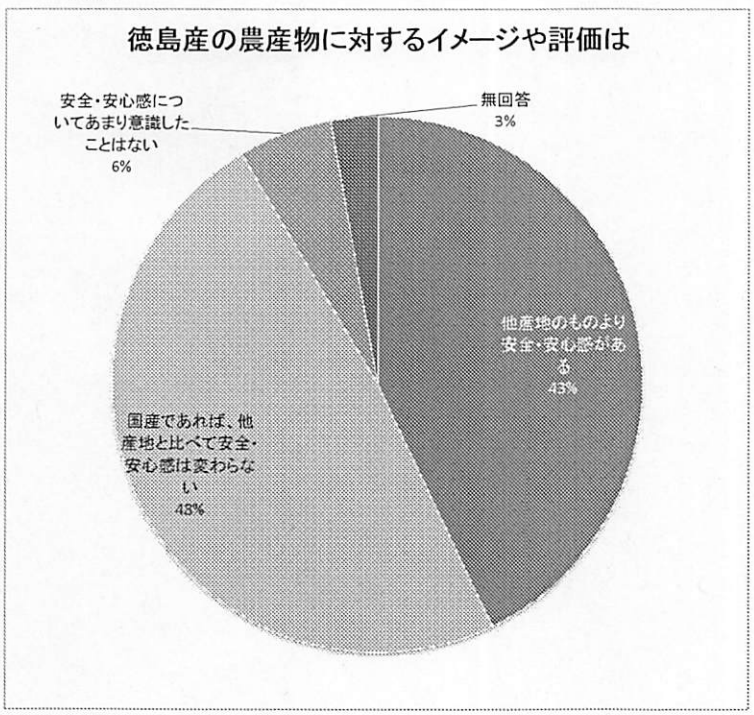
イ　(1)　農産物全般においしく質が高い　20
　　(2)　「なると金時」など特に厳選された品目でのみ質が高い　7
　　(3)　特段、徳島産においしさ・質に違いを感じない　7



ウ　(1)　値段が安く買いやすい　25
　　(2)　値段は高く感じる　9



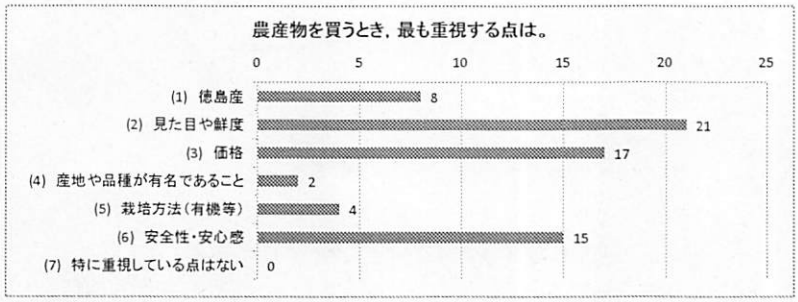
エ　(1)　他産地のものより安全・安心感がある　15
　　(2)　国産であれば、他産地と比べて安全・安心感は変わらない　17
　　(3)　安全・安心感についてあまり意識したことはない　2
　　※無回答　1



コメント：「色々な農産物が豊富にある」，「農産物全般においしく質が高い」，「値段が安く買いやすい」が徳島産へのおおむねのイメージであり好印象である。安全安心については，「国産であれば」がほぼ半数を占めたが，地元産に特に感じる方も相当数おり、全体的に徳島産へのイメージは高評価である。

アンケート調査結果　　非農業者用

問　6　　農産物を買うとき，最も重視する点は。（２つまで選択可）

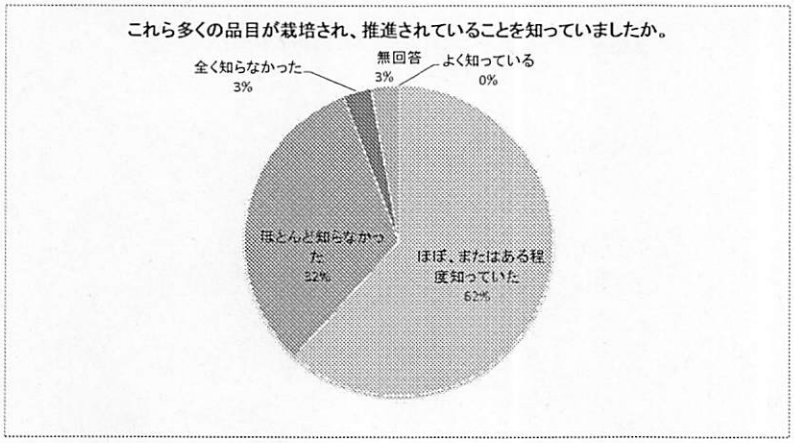


コメント：「見た目や鮮度」が最も多く，「価格」，「安全性・安心感」と続いている。
新鮮さや価格，安全安心（産地や表示？）を比較しながら選んでいると考えられる。

問　7　　本市では、生産量の多い品目や市場評価の高い品目、また産地の少ない独自の品目など、２３品目を（ブランド化）推進品目としています。２３品目については下記のとおりですが、このことについてうかがいます。

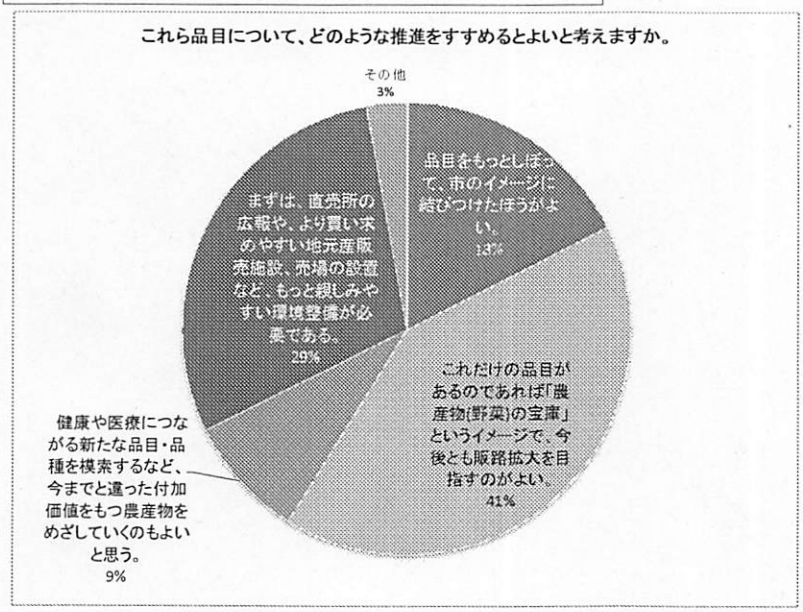
○ブランド化推進品目　　略

ア　これら多くの品目が栽培され、推進されていることを知っていましたか。



コメント：「ほぼ、またはある程度知っていた」が最も多く、「ほとんど知らなかった」
が次に多かった。すだち、かんしょ、(渭東)ねぎなど有名な品目は浸透しているかと思われる。

イ　これら品目について、どのような推進をすすめるとよいと考えますか。



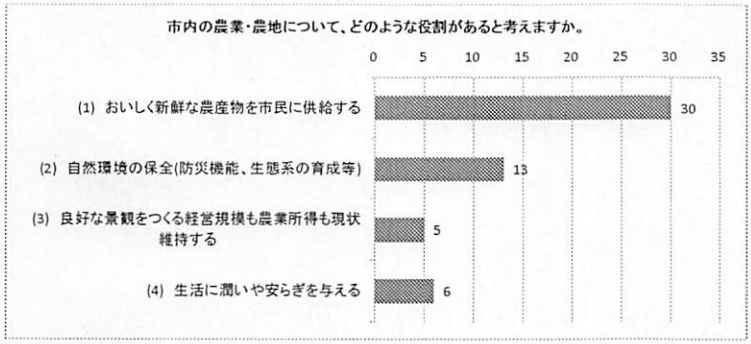
・農家にもっと売る意識を要求すべき

コメント：「農産物(野菜)の宝庫というイメージで、今後とも販路拡大を目指すのがよい」が最も多く、「直売所の広報や、より買い求めやすい地元産販売施設、売場の設置など、もっと親しみやすい環境整備が必要である」が次に多かった。イメージ戦略をさらに拡充することによる販路拡大を目指すことが良いと考えており、また入手しやすい環境整備を求めていることがわかる。

アンケート調査結果　　非農業者用

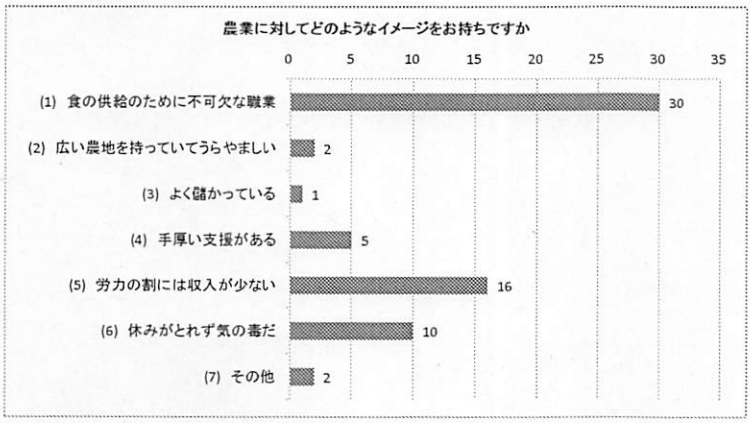
Ⅲ　農業に対するあなたの考え方についておたずねします。

問　8　　市内の農業・農地について、どのような役割があると考えますか。
（複数選択可）



コメント：「おいしく新鮮な農産物を市民に供給する」が最も多く、「自然環境の保全(防災機能、生態系の育成等)」が次に多かった。食の供給という役割があると考えている。

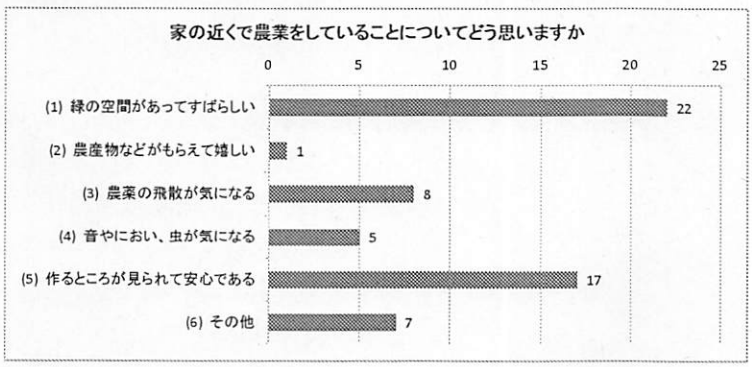
問　9　　農業に対してどのようなイメージをお持ちですか。（複数回答）



・休こん地もったいない活用必要と思う（菜園等）
※無回答

コメント：「食の供給のために不可欠な職業」が最も多く、「労力の割には収入が少ない」，「休みがとれず気の毒だ」が次に多かった。必要不可欠な職業とは考えられているものの，職業としてはキツイというイメージになっている。

問１０　　家の近くで農業をしていることについてどう思いますか。（複数選択可）

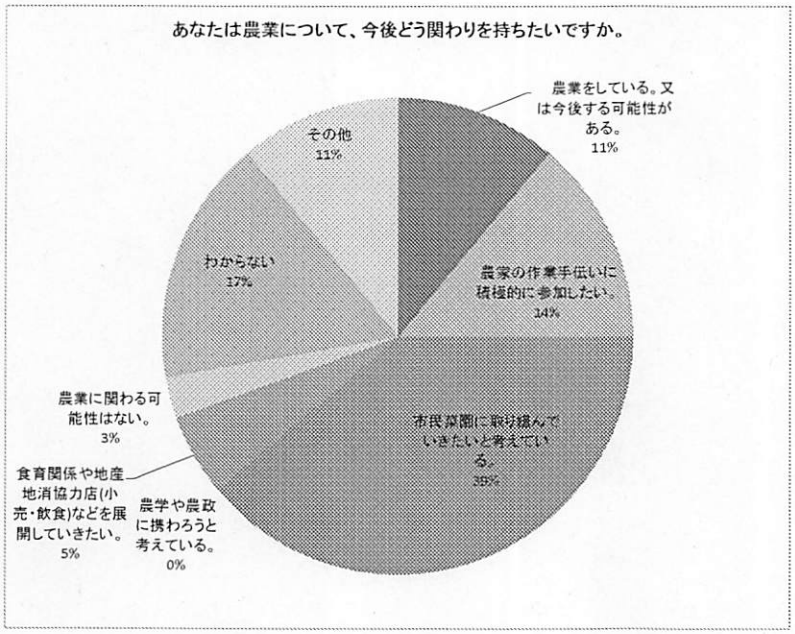


・子供に成長過程を説明できる
・近くで作られたものが産直市などで購入できることは安心感がある
・土地が先、家は後
・防災機能が高い（洪水などの水害を防いでくれる。ヒートアイランド化しない）
・子供の教育にもなると思う。スーパーでは，にんじんの葉やイネなどは見れないから。
・その風景で旬の野菜がわかり，季節が感じられる

コメント：「緑の空間があってすばらしい」が最も多く、次に「作るところが見られて安心である」が多かった。農薬や臭い・虫などが気になる人もいるものの，全体としては近隣での農業に対し、緑としてまた食育の現場として良い印象を抱いている。

アンケート調査結果　　非農業者用

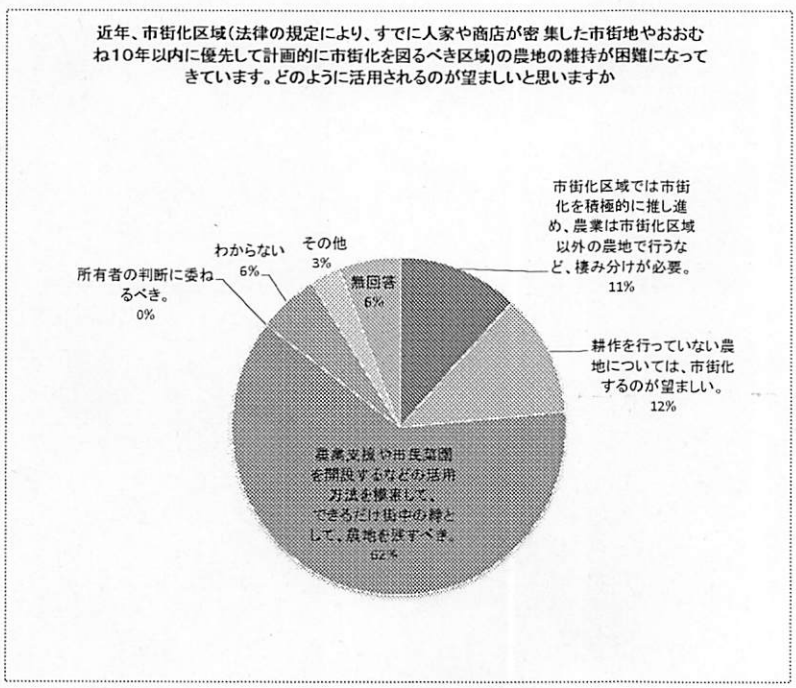
問１１　あなたは農業について、今後どう関わりを持ちたいですか。



・市民菜園に取り組んでいる
・将来市民菜園等ができればいいなぐらい
・興味は持って行きたい
・農作物を作ってみたいし，何らかの形で関わりたい

コメント：「市民菜園に取り組んでいきたいと考えている」が最も多かった。農業というよりも小規模趣味レベルの範囲で農作物を作りたいと考えている人が多い。作業手伝いの参加希望も一部見られる。

問１２　近年、市街化区域（法律の規定により、すでに人家や商店が密集した市街地やおおむね１０年以内に優先して計画的に市街化を図るべき区域）の農地の維持が困難になってきています。
どのように活用されるのが望ましいと思いますか。



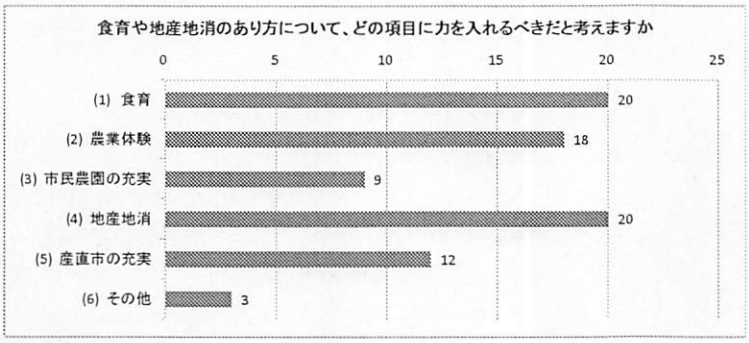
(6)　その他
・線引き（市街化と調整がある事態）に反対。線引きをやめれば市街地の農地が活用されると考えている。

※無回答

コメント：「農業支援や市民菜園を開設するなどの活用方法を模索して、できるだけ街中の緑として、農地を残すべき」が最も多かった。農地は何らかのかたちで維持していくことが求められている。

アンケート調査結果　　非農業者用

問１３　食育や地産地消のあり方について、どの項目に力を入れるべきだと考えますか。（複数回答）



・移住を含め農業希望者を募る事
・農地にゴミを捨てさせない
・農業従事者の高齢化への対応
　コメント：全体的に様々な回答があり、これらを総合的に取組む必要がある。

その他

・体験を通したり学校で学んだり様々な角度で子供の頃から食育にふれることで、食べ物や自分の身体づくりの大切さがわかり、農作物に対する意識も高まると思う。経験豊富な人材を栄養教諭として、もっと採用したらいいと思う。

・就農給付金で農業を始める場合、45歳未満とされますが、早期退職者やリストラ等で50～55歳でも農業を継承しなければならない時があるかもしれないので年齢制限を55歳までに引き上げてほしい。

・転勤族ですが、徳島に来て、本当に野菜や果物が安く購入でき、おいしいと感じます。県外の人に送ると、かなり喜ばれます。徳島の活性化に利用してください。

・地産地消のチカラに参加しています。大変いいプロジェクトですから、初参加の方を優先して受け入れるようにして、農業体験などによる地産地消の意識を持つ方も増やしていくとよいと思います。

・地産地消に興味を持っていない方の意識を変えていくためには、そういった層の方が立ち寄る場所や施設、イベントとのコラボを考える必要があると思います。外食チェーンやコンビニ、フジグランやゆめタウンのフードコートなど。食への意識が薄い層を取り込んでいくことが地産地消の促進や野菜摂取量増加につながっていくと思います。

・子供に食に興味が持ってもらえるようになってほしいと思います。家庭でできるなえを植えてみたりするぐらいしかできないのですが、食育イベントなどには積極的に参加していきたいと思います。

・野菜作りをすると生ごみも宝物になります。市民農園をどんどん増やして下さい。

・市民が安全安心、そしておいしい野菜を作ってほしいと思います。

・市として解決すべき問題もあるが、国の農業政策がその方向を大きく左右する。当面「農協」にメスを入れる必要がある。

・農家でも専業で1年中土地を活用している家少ない。休耕田、畑、活用して、野菜作り等に参加出来る人に協力してもらい、農業化として若い方、高年齢者でも参加出来るよう、地主は考えてほしい。

・農業を含めた１次産業の就業人口の減少は即食料自給率の低下につながる。食料自給率は国の根幹にかかわる。効率は大きな課題ですが農業を含めた1次産業を守っていくことは国にとって非常に大事と思います。

・旬の野菜を使って、子供向けの料理教室をされてはどうでしょうか？
・私の住んでいる地域の農地もあちらこちらで埋め立てられて住宅やアパートにかわっています。農地はいったん宅地化されると元に戻ることはないのです。農家の方も耕作しなくなった土地を耕作したいと思っている方に貸したりしているのでしょうか？（そういった取組があったら知らなくてすみません。）
農業を生業としている方々と、そうでない方々の農作物に対する考え方に差があるように思います。